

医療機関におけるアート導入に関する日仏共同研究

#ホスピタルアート
#デジタルアート
#日仏共同研究

DATA

● 主な連携先・メンバー

フランス アール・ダン・ラ・シテ ラファエル・ヴィアル氏・ラシュエル・エヴァン氏/パリ サント・マリー病院
フロランス・ボンテ氏/耳原総合病院アートセクション
室野愛子氏/なごやヘルスケアアート・マネジメント推進プロジェクト(2022年度まで)/特定非営利活動法人コミュニティナル 永廣信治氏・永廣佳氏/近畿大学 森口ゆたか教授/関西大学経済・政治研究所 関西ファミリービジネスのBCMと東アジア研究班

● 活動地域

大阪府堺市ほか

● 活動期間

2019年度～継続中

● 活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業/関西大学経済・政治研究所/科学研究費/日本リスクマネジメント学会



2023年6月7日
耳原総合病院におけるイリュミナルの実演

目的

ホスピタルアートに関する日仏共同研究を行う医療機関におけるアートの導入により、医療環境の向上に貢献する。

活動内容

- (2019年度) Zoomによる連続講演会を7回実施。
- (2020年度) Zoomによる連続講演会のテープおこしを行い、記録ファイルを作成。
- (2021年度) 11月 パリ、サント・マリー病院を訪問し、ボンテ医師からアルツハイマー病治療へのアートの導入について説明を受ける。12月 パリ、アルマン・トルソー病院を訪問しアール・ダン・ラ・シテのヴィアル代表・医師とエヴァン事務局長から、デジタルアート投影装置イリュミナルの実演説明を受ける。
- (2022年度) 11月 アール・ダン・ラ・シテのエヴァン事務局長が来日。なごやヘルスケア・アートマネジメント推進プロジェクトの連続第5回「フランスのヘルスケア分野のデジタルアート」を開催。エヴァン事務



2022年11月
ラシュエル・エヴァン氏が来日

活動の成果

- ▶▶堺市と関西大学の地域連携事業に基づく初めての書籍を刊行したこと。
- ▶▶日仏研究交流として、研究交流・講演を行ったこと。
- ▶▶フランスで投影装置イリュミナルを入手し各地で実演、実際に使用したこと。

連携先からの一言

アートの有用性は科学的にも立証されており、子ども病棟の待合室にデジタル水族館を設置したところ、鑑賞する時間が長い子どもほど痛みを感じにくいという実験結果が得られています。また、スタッフにとってもアートはとても重要です。(ラファエル・ヴィアル氏)

日本で私たちの活動が紹介され、書籍刊行、講演、実演と実際に日仏交流が行われることとなり、活動がさらに実を結びつつあると実感しています。

(ラシュエル・エヴァン氏)

連携にいたる経緯

堺市との地域連携事業でのZoomによる連続講演会において、アール・ダン・ラ・シテのエヴァン氏、耳原総合病院の室野氏、ボンテ医師らに講演していただいたことがきっかけ。

局長が名古屋から、ヴィアル代表がパリからZoom講演。2019年度に開催したZoom連続講演会に基づき2023年3月『日仏対訳 フランス医療機関におけるアート アートとリスク感性』(関西大学出版部)を刊行。パリの笹川日仏財団において、出版記念講演会を開催。アール・ダン・ラ・シテの投影装置イリュミナルを入手し日本に持ち帰る。(2023年度)4月～8月日本に持ち帰ったイリュミナルの実演を耳原総合病院、あいち小児保健医療総合センター、筑波大学附属病院、阪南リハビリテーション病院で行う。9月22日・28日 ガラシア病院ホスピスに入院中の患者に対して、日本で初めてイリュミナルを実際にホスピタルアートとして使用。

2021年12月アルマン・トルソー病院 におけるイリュミナルの実演



堺市と関西大学との地域連携事業に
基づいた初めての専門書籍

今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶デジタルアートの医療機関への導入：ホスピタルアートの中でも、アール・ダン・ラ・シテが近年力を入れているデジタルアートに注目して共同研究を進める。
- ▶▶イリュミナルの活用：アール・ダン・ラ・シテが開発したイリュミナルの日本での紹介と活用。
- ▶▶書籍の普及、講演の企画、記録誌の作成。

社会安全学部 教授 亀井 克之 Kamei Katsuyuki



専門は経営学・リスクマネジメント論。博士(商学)。フランスDEA(経営学)。日本リスクマネジメント学会理事長。ファミリービジネス学会理事。特定非営利活動法人コミュニティナル理事。

